

タイル及び目地の保護と防水



施工要領書

意匠性を活かしたタイル敷きベランダ、共通廊下など床面

下地処理

□ 下地ごしらえ

- ① タイルの剥離部、浮き箇所、ひび割れ箇所は、事前に張り替え又は、エポキシ注入・シーリング材充填などの補修をする。
- ② 深目地の場合、目地モルタルで埋め戻し、浅目地にして下さい。
(埋め戻し後の目地乾燥養生期間を十分に取って下さい。)
- ③ 伸縮目地やその他のシーリング材が劣化し、補修の必要な箇所は、打ち替えを行い、乾燥硬化させ、打ち替え後は、シーリング上を養生するか見切り、セブンスは塗装しないで下さい。
塗装する場合現在まで不具合の少ない、2成分形アクリルウレタンをお薦めしております。

(ガラスブロック面などへのご注意)

シリコンシーリングを打ち込まれている場合は、その上に塗装は出来ません。 ガラスブロック面や、目地モルタルへのシリコンシーリングによる汚染を十分にクリーニングし、付着阻害の無いようにしてから塗装して下さい。 セブンスを塗装する場合には、ポリイソブチレン系シーリング材に打ち替え、ご利用下さい。

- ④ 入り隅部へは、2成分形アクリルウレタンを三角に打ち、面にしてから施工すると防水効果が上がります。
- ⑤ ポリサイファイドシーリング材、変性シリコンシーリング材の場合、シーリング材の上へは養生し、セブンスを塗らないようにするか、後打ちするよう薦めております。
- ⑥ シーリング用プライマーやエポキシ注入材が、タイル表面に付着した箇所に経時後見苦しい黄変むらとなるので、未硬化の状態でシンナー拭き・研磨紙ずり等により、完全に除去しておく。
- ⑦ 立上がり部等の入り隅は、2成分形アクリルウレタンを三角に打つことで面を造り、防水効果を向上させます。
- ⑧ ワックスや油脂などがタイル面に付着している場合は、洗剤を使用し、水洗いを行うか、研磨紙ずり及び、シンナー拭き等により、除去する。
- ⑨ 目地部、ひび割れ部などからの白華物(エフロレッセンス)は、硬質ブラシやスクレーパー、ヘラなどで、できるだけ除去し、弱酸性液(希塩酸、しゅう酸等)で洗浄除去後、水洗乾燥する。尚、酸で目地モルタル、タイル裏面モルタル、及びその他のセメントモルタル、コンクリート面の劣化、強度低下を生じさせないよう、水洗いを充分行うなどして注意して施工する。
- ⑩ かびや藻などの微生物汚染を生じている場合は、カビ取り材、アルコール液で殺菌処理する。
- ⑪ 塵埃や付着物などの汚染物は、セブンドオ等を用い、汚れを除去した後、高圧水洗浄(150kgf/cm²)を行う。
- ⑫ 水洗後のタイル面を充分乾燥する。

セブンS (S-F工法) の施工

□ セブンS (S-F工法) の塗り工程

工 程	使 用 材 料	希 積 (重量%)	塗付け量 (Kg/m ²)	工程時間 (時間)	施 工 方 法
1 下塗り	セブンSシーラー	無希積	0.15 ～0.2	3以上 24以内	中毛ローラー
2 主材塗り(1)	セブンS	水 (0～3)	0.3 ～0.5	3以上 168以内	ゴムゴテ
3 主材塗り(2)	セブンS	水 (0～3)	0.3 ～0.5	16以上 168以内	ゴムゴテ又は、 中毛ウールローラー
4 上塗り (半艶、艶有)	セブンSFトップM#30	無希積	0.12 ～0.15	2以上 8以内	中毛ローラー
5 上塗り (半艶、艶有)	セブンSFトップM#30	無希積	0.12 ～0.15	24以上 (最終養生)	中毛ローラー

- ☆ 陶器質や無釉薬タイルの場合、セブンSシーラーは乾燥後2回目を追いかけて塗して下さい。
- ☆ セブンSシーラー塗布後、目地モルタルの吸い込みの大きい部分は、乾燥後、再度増し塗りし、目地モルタルを均一に濡れ色にして下さい。
- ☆ セブンS主材塗り2回で最低0.6kg/m²塗り切れない場合、塗りきるまで重ね塗りして下さい。
- ☆ タイル下地が接地面からの立ち上がり高がひくい場合、目地モルタルの白濁する場合があります。

- 1) 下地の状態により、塗付け量に差異を生じることがあります。
セブンSシーラー塗布後、目地モルタルの吸い込みの大きい部分は、乾燥後、再度増し塗りし、目地モルタルを均一に濡れ色にして下さい。
- 2) セブンS主材塗りは、ローラーの運びをゆっくり配り塗りすると、気泡を含みづらくなります。一度に腕を伸ばし塗装すると、造膜不足になり、気泡が入り、白ぼけを発生し易くなります。
- 3) 予めセブンS主材の仕上方向を打ち合わせて下さい。
- 4) セブンSトップは、1回目塗装後表面が乾燥したら、追いかけて2回目を塗装して下さい。
(2回目を翌日塗付すると、リフティングする場合があります。)
- 5) タイル面が手触で暑い場合。セブンS主材塗付時の乾きが早くなり、不具合を発生し易くなりますので、注意して下さい。
 - ・セブンS主材に水道水3% (300～400cc) 程を加え、混練棒にて気泡が入らぬように攪拌し、塗膜の表面乾燥を遅らせる。
 - ・セブンS主材を狭い面積づつ塗り継ぎ、主材の糸引き、ローラー運びが重くなったら、塗りを止め、乾燥硬化後に塗り増しして下さい。
 - ・セブンS主材表面が皮張り、糸引きが始まってから、ローラーを運ぶと、塗膜表面を荒らし、気泡混入させ、仕上面を悪くし、白ボケの要因となります。

セブンス (S-F工法) 施工要領

●はじめに

セブンスシリーズは、透明仕上げの為、汚れたローラー、ハンドル等の道具は使用しないこと。

1) 下塗り

- ① 下地調整が十分行われていることを確認後、下塗り工程を行う。
- ② セブンスシーラーは、基剤/硬化剤を 13/1 (重量比)とし無希釈で、ハンドミキサー等で均一に混合する。
- ③ 中毛ウールローラー又は、スプレー塗りにより、塗り残し、塗り継ぎの生じないよう均一に所定量塗り付ける。(下地、タイルの状態により塗布量が異なる場合があります。)

2) 主材塗り

- ① 下塗りの乾燥後主材塗りする。 ※指触で確認する。
- ② セブンス(主材)を、ゴムゴテにてタイル面を流し塗りを行う。軟らかくタイル面をしごきながら、均一に塗布する。
- ③ セブンス 1回塗り面の乾燥硬化(通常3時間以上)後、透明になってから、2回目のセブンスをゴムゴテ又は、中毛ウールローラーを用いて、2回目を均一に塗布し、仕上げる。
- ④ 2回のセブンス(主材)塗りを中毛ウールローラーで仕上げると、ローラー目が大きく残るので、1回目はゴムゴテで行う。(所定量を塗り付ける迄何回でも塗る。)

3) 上塗り

- ① セブンス(主材)の乾燥硬化を確認後(16時間以上)、上塗り工程を行う。
- ② セブンス-FトップM#30は、基剤/硬化剤/骨材を11/1/0.5(重量比)とし、主剤、硬化剤、骨材を必ず全量混入し、ハンドミキサー等を使用して均一に混合する。上塗材の半艶・艶消しは、艶消材が分離状態になっている場合もあります。缶の底部まで充分、攪拌、混合してからご利用下さい。
上記の理由から、石油缶より少量の使用は行わないで下さい。少量使用の場合は、3.125Kgセットをご利用ください。
- ③ 中毛ウールローラーにより、塗り残し、塗り継ぎの生じないよう均一に塗り付ける。
なお、骨材が沈降し易いので、骨材がムラにならぬよう、攪拌を頻繁にし、塗り付けて下さい。
- ④ セブンス-FトップM#30 1回塗り面の乾燥後(通常2時間以上)、2回目のセブンス-FトップM#30を中毛ウールローラーを用いて、1回目同様に骨材が沈降しないよう、攪拌を頻繁にし、仕上げる。(当日2回塗して下さい。)
- ⑤ セブンス主材層は透明な塗膜なので、上塗りを塗るとき、塗り残しや骨材の塗りムラが発生しやすいので、必ず2回塗りをして下さい。

施工全般における注意事項

セブンスを斜壁面や手摺天平端面などに施工した場合、垂直面と比べ、陽射しの当たる角度からタイル表面温度の高低差が大きく、平場面のように降雨の滞留時間も長く、塵埃なども堆積し易く不具合進行が速いことから、毎年1度の点検と、不具合部分の補修、更に、5～7年程度でのトップコート塗り増しをご提案いたします。

- A) セブンスシーラー、セブンスネオシーラー、セブンストップM#30は溶剤系ですので、臭気等を発生させるため、近隣周囲への配慮を十分注意し、施工する。
居室内で使用する場合、塗料扱い時、塗装時には、通気・換気を十分に行ってください。
- B) 躯体(素地)に、外観上の欠陥があれば、施工を禁じ欠陥処理を行う。
- C) 気温変動での注意
低温(5℃以下)の場合、樹脂の反応硬化に支障をきたす場合があるため施工中止して下さい。
高温(気温35℃以上、躯体温度30℃以上)、及び湿度85%RH以上の場合、塗膜乾燥、ローラー作業性に支障をきたす場合がありますので十分注意してください。
- D) 降雨・降雪の恐れがあるときは、施工を避ける。
- E) 風速5m/sec以上のときは、塗材の飛散公害・塗付けムラ等の支障をきたすので、施工に十分注意する。
- F) 材料の保管は、風雨・直射日光を避け、必ず冷暗所で保管する。
- G) トップコート・希釈剤・シーラーは、溶剤系なので火気、中毒等に十分注意する。
- H) 塗付け途中、又は乾燥途中に急に雨が降ってきたときは、少なくとも塗膜が乾燥するまで、天幕などで覆って流出しないようにする。
- I) セブンスの保管は、5℃以上の場所で保管する。
- J) タイル目地をダイレクトシーリング材等で補修してある場合は、目地の色が不均一となるので、あらかじめ管理者に了解を得る事。
- K) セブンスシーラーや、セブンスネオシーラーを塗装すると、目地が濡れ色で黒くなるので、予め、発注者に承認を受ける。ようにする。
又、濡れ色で濃い部分と、目地モルタル色のむらに仕上がった場合は、目地の劣化が進行している場合が考えられるので、セブンスシーラーを再度塗装し、濡れ色に統一させる。
- L) セブンス(主材)に清水を入れ攪拌する場合は、ハンドミキサー等は使えません。、高速回転の機械を使用すると、気泡が混入して抜けませんので、必ず攪拌棒で静かに攪拌する。
- M) タイル目地や、タイルにひび割れが発生している場合は、シーラー塗装後、予め、セブンス(主材)をひび割れ部に、ハケ又は、ゴムべら、ローラー等で増塗りを行い、乾燥後、ローラー又は、吹付けの通常工程作業を行う。
- N) 各工程の塗材塗装後すぐに塗面を養生シート等で密閉すると、養生シートと塗膜が接着し剥がれなくなることがあるので、養生シート等で密閉しないように注意する。(逆養生が不要となる手順を考える。)
- O) 材料の取扱いの際は、MSDSを確認してください。

使用材料一覧表

■ 荷 姿

製 品 名	容 量	荷 姿	備 考
セブンSシーラー 基剤	13Kg	石油缶	14Kgセット
セブンSシーラー 硬化剤	1Kg	角缶	
セブンSネオシーラー (弱溶剤 耐水白化強化タイプ)	11Kgセット	石油缶	基剤/硬化剤 10/1
	3. 3Kgセット	石油缶	基剤/硬化剤 3/0.3
セブンS	14Kg	石油缶	
セブンS-FトップM#30 基剤	11Kg	石油缶	12.5Kgセット 艶有、半艶、艶消
セブンS-FトップM#30 硬化剤	1Kg	角缶	
セブンS-F 専用骨材	0.5Kg		
セブンデオ	4L	ポリ容器	アルカリ性洗剤
セブンヨゴレガード	4L	ポリ容器	汚染防止剤
セブンファンデクリヤー I	1Kg	角缶	滲み止めプライマー

■ 使用材料の種類

工 程	材 料 名	種 類	備 考
下塗	セブンSシーラー	アクリルシリコン樹脂系 (2液型強溶剤系)	陶磁器タイル、目地モルタル及び付着力強化、耐水、耐アルカリ、耐久性付与
主材塗り	セブンS	特殊アクリルシリコン樹脂系	防水機能及び耐久性付与
上塗	セブンS-FトップM#30	アクリルシリコン樹脂系 (2液型弱溶剤系 + 骨材)	高耐久性、耐汚染性付与、ノンスリップ

 **株式会社セブンケミカル**

東京都新宿区西新宿7-17-14 (源共同ビル)
 TEL 03(3366)2616 FAX 03(3366)2619
 e-mail kuroyanagi@seven-chemical. co. jp
 e-mail hukuda@seven-chemical. co. jp